

## 平成30年度(第28回)一関文化賞表彰式典挙行

# 潤いのある文化的まちづくりを目指し 文化・芸術の振興、人づくりの活動を顕彰

## 式 辞

NPO法人一関文化会議所 理事長 内田 正好



表彰式で式辞を述べる内田理事長

皆様今日は。菊薫る秋日和のこの佳き日に、平成30年度第28回「一関文化賞」の表彰式にご出席を賜り誠に有り難うございます。

ご来賓として一関市長勝部修様を初めたくさんの方々に御臨席を賜り式典を挙行できますことを心より感謝申し上げます。

私共特定非営利活動法人一関文化会議所の事業や活動につきましては、皆様から温かいご理解とご支援を戴いておりますことも改めて御礼申し上げる次第でございます。

さて、一関文化会議所では、創立の目的に「ふるさと

創生」「文化の創造」を掲げて「潤いのある文化的な魅力あるまちづくり」を目指しながら各種事業の展開を図っております。その中で顕彰事業としての「一関文化賞」は文化・芸術の振興並びに活力あるまちづくりや人づくり等の分野で地道にそして顕著な研究や活動を積み重ねられた方々に敬意を表し顕彰させて戴いております。

今年度の「一関文化賞」は、地域文化部門 一関古文書に親しむ会様、人づくり部門 花泉先人顕彰会様、そして生活文化部門 村上和子様のお三方でございます。皆様の詳しい御活躍ぶりや輝かしい御功績につきましては、このあと担当の者から具体的にご紹介申し上げます。

本日「一関文化賞」を受賞された方々は、今後さらに研究活動や発表活動に意欲的に取り組まれ、当一関地方の歴史と文化の創造や継承発展のために益々ご活躍されることをご祈念申し上げます。

本日は誠にありがとうございます。

平成30年11月8日



祝辞を述べる 勝部一関市長



祝辞を述べる 槻山一関市議会議長



功績を紹介する 只野奨励委員会委員長

## 第28回一関文化賞

- ・地域文化部門
- ・人づくり部門
- ・生活文化部門

# 一関古文書に親しむ会 花泉町先人顕彰会 村上和子氏 の3者を表彰

奨励委員会委員長 只野弘三

第28回（平成30年度）一関文化賞の表彰式は、11月8日、ホテルサンルートを会場に執り行い、当地域において文化・芸術の振興、人づくりや活力あるまちづくり等の分野で貢献された3者を表彰し、その功績を讃えました。

地域文化部門で、一関博物館の開館に欠くことのできない古文書史料の整理に協力し、博物館の建設はもとよりその機能充実の一翼を担い目づ、一関地方の歴史の調査とその解明に功績が大きい一関古文書に親しむ会。人づくり部門で、花泉町の生んだ先人の顕彰活動を通じ、次代を担う子どもたちに地域の歴史・文化を触れさせ、郷土愛やふるさとに誇りを持つ意識の涵養に多大な貢献のある花泉町先人顕彰会。生活文化部門で、伝統的日本家屋の維持・管理を実践すると共に、屋根ふき（茅葺き）職人の育成等、魅力ある地域づくりに貢献している村上和子氏を表彰しました。

式の中では、受賞者の方から表彰に対する感謝と今後のさらなる活動への決意の言葉を頂きました。受賞者の方のご功績を紹介いたします。



左から、一関古文書に親しむ会 齋藤会長、  
花泉町先人顕彰会 藤堂会長、村上和子氏

### 【受賞者の紹介】

#### 一関文化賞「地域文化部門」

#### こもんじょ 一関古文書に親しむ会

一関古文書に親しむ会は、一関市の博物館建設への取り組みと並行して平成3年、4年に開催された一関市教育委員会主催の「古文書解読講座」を受講した有志により、平成4年10月に結成されました。以来、「会員の古文書読解力を高めながら、一関地方の歴史の実証とその解明を図り、更には古文書類の掘り起こしと、その消滅散逸を防止することにより、当地の文化興隆に寄与すること。」を目的として活動しています。

会の結成後間もない平成5年2月からは、平成9年10月の一関市博物館開設に必要な最小限欠くことのできない資料となる古文書史料整理に積極的に協力しました。開館後も、ボランティアとして博物館が進める十万点にも及ぶ膨大な古文書史料（猪岡槻山家・楊生阿部家・狐禅寺小野寺家・弥栄教覚院・大原鳥畑家などの史料）の整理に協力しています。その活動は現在も継続しており、博物館の機能充実に大きな役割を果たしています。

平成5年度からは「古文書解読講座」を毎年開催して、その成果を解読史料集「磐井の古文書」として第1集を平成8年3月に刊行、平成27年5月には第6集を発刊し、当地方の歴史の解明と資料の整備保存に貢献すると共に、広く市民に郷土の歴史を啓発しています。また、平成11年から「古文書解読初心者講座」を開催するなど古文書を解読できる人材の育成にも努めています。

更には、平成23年9月からおよそ4年にわたり、陸前高田市古文書研究会の要請を受け、東日本大震災の津波により解読文のほとんどが流失した陸前高田市の「吉田家文書」（岩手県指定文化財で江戸時代に気仙大肝入であった吉田家の定留（執務日誌））の解読作業に全面協力し、再度の解読原稿作成に寄与しています。

一関古文書に親しむ会が発足当時から長年にわたり取り組んできた活動は、一関地方の歴史の調査とその解明、啓発等地域文化の振興に大きく貢献し、その功績は大なるものがあります。

#### 一関文化賞「人づくり部門」

#### 花泉町先人顕彰会

花泉町先人顕彰会は、平成2年3月「花泉町の生んだ先人の顕彰活動を通じ、人材の育成に資するとともに地域の活性化と連帯感を培うこと」を目的に発足しました。その目的達成のために多様な事業・活動を継続実施していますが、なかでも地域に関心を持ち、愛着や誇りを持てる人材を育てることに主眼を置き、児童・生徒達への「語る活動」を実践しています。

その内容は、花泉地域内全小学校において、紙芝居・スライド・講話等により講座・学習会を開催し、次世代を担う子どもたちの郷土愛、地域愛を育み、地域学啓発をしています。

会員の研修事業である地区探訪もこの27年間で町内7地区を三巡りしており、回を重ねるごとに地区の歴史文化の掘り起こしや、新しい発見にも貢献しています。

また、先人の遺産と研究資料の保存や業績の広報啓活

動をする中で、和算家・千葉胤秀の生誕150周年を記念して「千葉胤秀顕彰花泉珠算競技大会」が生まれ、会員の参画のもと、今年で20回目を迎えることになりました。毎年、市内外の児童・生徒多数の参加のもと、関流和算の事績を学び、そろばんの熟達をはじめ物事への考え方・見方の習得、社会に必要な人材になることを教え、啓発に努めています。

更には、顕彰推進に係る関係機関・団体との連携を図る中で、平成28年度から花泉高等学校で、花泉の史跡や名所を訪ね、その歴史や伝統を学ぶ「地域学講座」が生まれ、会員が講師・現地案内を務め、全面的に支援しています。その成果は「花泉先人顕彰発表会」で「地域学で学んだこと」として発表され、花泉の歴史の素晴らしさを知り、更なる探究を醸成し、学校と地域・地域民との共生育成にもなっています。

花泉町先人顕彰会のこれらの活動は、地域民への先人顕彰に留まらず、次代を担う子どもたちに広く地域の歴史・文化に触れさせ、郷土愛や、ふるさに誇りを持つ意識の涵養に貢献しており、その功績は大なるものがあります。

## 一関文化賞「生活文化部門」

# 村上和子氏

村上和子氏は昭和5年千厩町に生まれ、昭和23年県立一関高等女学校を卒業。その年から昭和25年まで旧千厩町立磐清水小学校教員として勤め、25年11月に千厩町字小梨の

村上家に嫁ぎました。

昭和25年戦後間もない当時、村上家の住宅は家屋の傾きや茅葺き屋根の雨漏りなど老朽化も著しい状況に在りました。この大規模な茅葺き建物群を、現状維持管理し続け、昭和50年代からは愛着の湧いた建物の修復を決意し、1年間働いた収入見合いの費用で直すことを積み重ね、約20年間を要して一応の修復に漕ぎ着いたものです。

その後、村上家の住宅は建物調査の機会があり建築史上の価値評価が出され、岩手県文化財調査を経て、平成8年に岩手県指定有形文化財の指定がなされました。

村上家住宅は、旧仙台藩領の北辺地域に特徴的な上層民家の典型的な間取り形状という点が希少とされるほか、全国的にみても一般の民家では村上家住宅にみるような、一住宅の敷地内に6棟の茅葺き建物が現存する例は極めて少ない貴重な存在と評価されています。

和子氏の弛みない建物への強い愛着と保存への取り組みが、この地方の貴重な歴史・生活文化を伝える資料となっています。

また、伝統的日本家屋の建築・維持・管理には、それら関連の人材育成が不可欠との認識のもと、「かやぶき職人募る会」や「かやぶき民家を残す会」の組織的な活動に取り組み、屋根葺き職人の育成をはじめ、茅葺き民家の保存・管理とその実践活動をしています。

これら、建物の保存や人材育成等への取り組みは、一関地方の貴重な歴史・生活文化の啓発と情報の発信、魅力ある地域づくりに大きく貢献し、その功績は大なるものがあります。

# ふるさと学習院には100名が受講

## 現地探訪は「角田・丸森」の歴史を体感

事業委員会委員長 工藤 武

本年度のふるさと学習院は、当市の特徴的風景として市民に親しまれている北上川とその周辺にスポットを当て、その地域に根差した歴史や文化がどのようなものであったのかを学ぶべく現地探訪を含め4回コースで企画したところでした。

4回目に計画しておりました 東北工業大学名誉教授の 高橋 恒夫先生を講師にお招きしての講座「両磐地域の近代和風建築」は残念ながら先生が体調を崩されたため実施するに至りませんでした。開催を心待ちにしていた皆様にはこの場をお借りして、心から詫言申し上げます。大変申し訳ありませんでした。

なお、高橋先生が予定しておりました講座の内容につきましては、先生のご理解とご協力のもと文化講座収録〔第六集〕として発刊いたします。



邊見清二講師



現地探訪に参加の方々

## ふるさと学習院

回	開催日	内 容	講 師	受講者数
1	6月12日	講座 近代の北上川舟運 蒸気船と発動機船	石巻千石船の会 会長 邊 見 清 二 氏	33人
2	7月25日	講座 気仙大工達の出稼地にのこる遺構	産金遺跡研究会 会長 平 山 憲 治 氏	27人
3	9月6日	現地探訪 宮城県南の歴史文化 ～角田・丸森の歴史体感～		40人
4	10月23日	講座 両磐地域の近代和風建築	東北工学大学 名誉教授 高 橋 恒 夫 氏	中止

研修・視察事業

# 東北人(みちのくの人々)の 「信仰の深淵と伝説の源」の探訪

総務委員会委員長 安東正利

6月27日朝、研修先の山形県置賜地方の天気予報を憂いつつも日本三大文殊と言われる亀岡文殊、日本三熊野と言われる熊野大社等の成り立ちや御利益への東北の人々の祈願の想いに思考を馳せらせつつ東北自動車道を一路研修先に向かいました。

生憎、小雨降りしきる中の文殊菩薩の拝観となりましたが、安置仏の大黒天の重みが徐々に軽くなる感触を得ると共に、利根水で知恵を得て、次の熊野大社に移動した頃には雨も一休み。

熊野大社の大イチョウ、大社本殿、三羽の兎等のパワースポットを体感して

心身充実!! 無病息災!! 大願成就!!



参加の方々



参加の方々

## 「出前科学授業」・「子ども探検隊」 楽しかった! と好評

子ども委員会委員長 伊藤勝義

東大生CASTメンバー8名による「東大生出前科学授業」を8月30日に花泉中で、31日は千厩中と室根中で開催しました。生徒達からは、「すごかったです。科学って面白いですね」「どの実験もワクワク感が一杯でとても楽しかった」などの感想を頂きました。

「一関ふるさと子ども探検隊」は、10月28日に一関地域の子供達を対象に実施しました。参加人数は、一関小8名、南小8名、滝沢小2名、山目小1名の19名でした。



一関ふるさと子ども探検隊

貝島貝塚現地、大籠キリシタン殉教公園、せんまや街角資料館、芦東山記念館、石と賢治のミュージアムを探検しました。子供達からは「いろんな物を見られてよかった」「楽しいことがいっぱいよかった」などと好評でした。



東大生CASTメンバーによる「東大生出前科学授業」



平成30年度 NPO法人一関文化会議所子どもスペシャル

春休み! チャーリー西村

### びっくりサイエンスSHOW

米村でんじろう先生の一番弟子!!

★とき: 平成31年3月23日(土) 開演14時00分

★ところ: 一関文化センター 中ホール

【チケット全席指定】

前売 平成30年12月20日(木) ~

窓口販売 8時30分~、電話予約 9時00分~

入場料 前売 子ども(3歳から中学生まで) 700円

大人 1,300円

当日 子ども(3歳から中学生まで) 800円

大人 1,500円

- ・3歳未満は保護者1名につき1名まで膝上鑑賞無料(着席鑑賞は有料)
- ・チケットは一関文化センター、さとう屋楽器店、小原書店、コンビニなどでお求めいただけます。

